

# その2 地域活性化とエコツーリズム について 東村慶佐次



**エコツーリズムとは**  
エコロジー(Ecology:生態学)とツーリズム(tourism:観光)を足して作った言葉で

- ① 地域の自然環境や文化の保全に貢献する、
- ② 地域経済の活性化に資する、
- ③ 観光業等関連産業に適切な利益をもたらす、
- ④ 地域住民及びツアー参加者の環境に対する意識を向上させるような観光のことです。



慶佐次川河口に広がるマンブロープ林には大勢の観光客や修学旅行生が訪れます。  
(山村振興等農林漁業特別対策事業により設置された遊歩道)

| 直接的な効果                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・東村の認知度の向上</li> <li>・自然環境保全に対する村民意識の高揚</li> <li>・観光客の増加</li> <li>・経済効果(共同売店で農産物販売、食堂、喫茶店、民宿、ハーブ園)</li> <li>・他の体験交流事業への参加者の増加(ブルーツーリズム協会、農業体験、農家民泊、伝統芸能)</li> </ul> |
| 間接的な効果                                                                                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドをする人が増えた</li> <li>・新たな地域リーダーの発掘</li> <li>・集落がきれいになった</li> </ul>                                                                                                |

## 二、協会が地域活性化に与えた効果

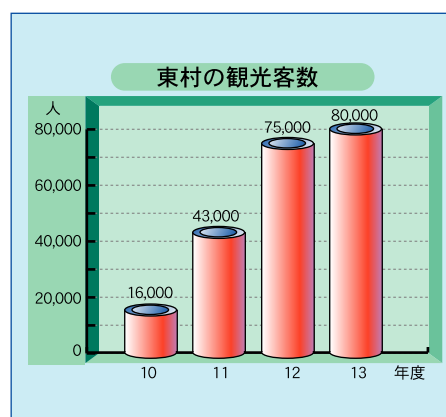
「一、協会のねらいと事業」  
東村エコツーリズム協会は、「東村にふさわしいエコツーリズムの確立を目指し、自然・文化とのふれあい及びその保全を行うとともに地域経済への貢献を通して東村の活性化を図ることを目的に設立されました。那覇市などの都市地区や県外の観光客を受け入れる組織を作ることが、地域主体の交流の場を提供するためには重要です。また、地域が主体性を持たなければ経済的波及効果は薄く、持続的に自然や文化を守ることもできないことから、村民へのエコツーリズムの普及、啓発を図るための講習会・講演会なども開催しています。民間と行政が一体となった組織づくりは全国でも初めての試みとして注目されています。」

## 三、行政の支援

- イ 交流拠点施設の整備(村民の森、ふれあいヒルギ公園、バンガロー等宿泊施設、遊歩道)
- ロ 人材育成事業(沖縄県離島、過疎地域ふるさと活性化事業)
- ハ 「東村自然ガイドブック」「私たちのマングロープ」の発行(ソフトの充実)
- ニ 東村エコツーリズム協会、東村ブルーツーリズム協会への運営補助

## 四、今後の課題

行政との連携による専従職員の配置(コーディネート)の確保の検討があります。また、拝所、海、山への配慮、観光客増による環境問題への対応、ガイドの養成、旅行社等他産業との連携なども、検討していく必要があります。



緑豊かな沖縄本島北部には、パイナッブルの生産で有名な東村があります。ここ東村で県内でも早くからエコツーリズムに取り組んでいる東村エコツーリズム協会の島袋会長からお話を聞きました。

## ○修学旅行で体験学習を行った生徒の声



私は、3日間の体験学習でヤンバルカヌーのグループに入りました。

最初に簡単な説明を聞いて二人一組でカヌーに乗りこみました。初めての体験でとまどいぎみでしたが、女子のグループには負けまいと真剣になりました。左右をマングロープにかこまれて川を往復して岸にあがると、服はびしょびしょで着替えが必要なくらいでした。岸で他のみんなを待っている私の足元をちょこちょこ何かが動いていて、拾ってみるとヤドカリのようだったので手の平で遊んでいると、地元の人(カヌーガイド)がそれを見つけてくれて、自然記念物だと教えてくれました。そんなものが自分の手の平で遊んでいると思うと不思議な気分になりました。

カヌーの後は地元の人(カヌーガイド)の森を案内してくれました。カヌーを漕いでいるときは、それが精一杯でマングロープを見ている余裕がなかったものでじつくり見ました。マングロープの葉にはところどころ黄色いところがあつてこれは潮水を吸うので塩水を一点にあつめて落とすそうです。みなさんとてもやさしくて、沖縄の人と身近にふれあえました。

東京都のKさん



カヌーの体験学習風景